

The background of the slide is a high-resolution photograph of the Orion lunar lander on the moon's surface. The lander is a complex, multi-faceted structure with various panels and instruments. It has four landing legs extended to the ground. The moon's surface is covered in numerous craters of various sizes, and the horizon is visible in the distance. The lighting is dramatic, with strong highlights and deep shadows.

# 決算説明資料 Q1 2025年3月期

i s p a c e

## 2025年3月期 Q1決算説明資料の流れ

▶ エグゼクティブサマリ

---

▶ 事業ハイライト

---

▶ 財務ハイライト

---

▶ **Appendix**

- 事業概要
  - M1 Overview
  - 開発KPI
  - 営業KPI（ペイロードサービスの売上認識）
  - 持続可能なビジネスモデル
  - 業績推移
  - 用語集
-

## 2025年3月期Q1 エグゼクティブサマリ

### 事業環境

- 10年で1兆円「宇宙戦略基金」の始動により当社のビジネス機会拡大を展望

### 当社開発

- **Mission 2**：ランダーは熱真空試験が完了、ローバーは組立完了し、冬の打上げに向け順調
- **Mission 3**：NASA及びDraper同席のもと技術調整会議を実施し、夏にCDR<sup>(1)</sup>完了予定
- **Mission 6**：Series 3 ランダー<sup>(2)</sup>の基本設計が進行中、秋にPDR<sup>(3)</sup>完了予定

### 当社ビジネス

- 新たに韓国の民間企業とMOU<sup>(4)</sup>を締結
- コマツとコンサルティング契約を締結

### 当社財務

- 当社過去最大規模の100億円のデットファイナンスを実施

(1) Critical Design Review (CDR): 詳細設計審査会。製造と試験の詳細設計と検証計画が適正かを、これまでに実施した施策評価、熱構造特性の評価、電気機械設計等の評価を活用して確認する審査会で、当社の開発における重要マイルストーン

(2) 今後変更の可能性がある仮称

(3) Preliminary Design Review (PDR): 基本設計審査会。仕様値に対する設計結果、設計検証計画の実現性を確認する審査会で、当社のランダー開発における重要マイルストーン

(4) Memorandum of Understanding (MOU)：基本合意書

# 01

## 事業ハイライト

コンテンツ：

- 事業環境
- ミッション計画
- ミッション2の進捗
- ミッション3の進捗
- ミッション6の進捗
- グローバル顧客の開拓進捗
- 資金調達状況



## 10年間で1兆円「宇宙戦略基金」の始動により当社のビジネス機会の拡大を展望

### 宇宙戦略基金の概要

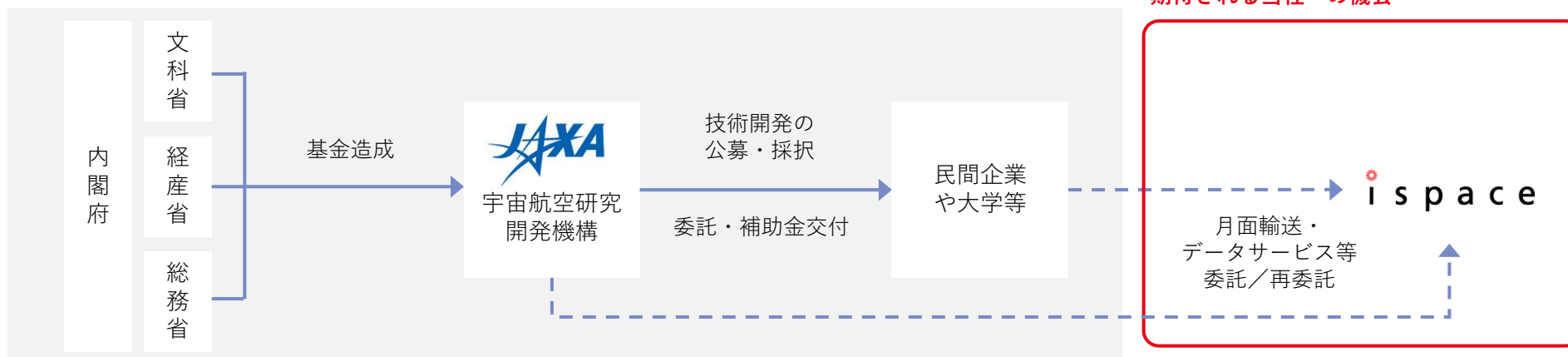
- 民間企業・大学等が複数年度（最大10年間）にわたって研究開発に取り組めるよう、産学官の結節点としてJAXAの戦略的かつ弾力的な資金供給機能を強化
- 第1期では**3,000億円**の補正予算が組み込まれ、**2024/7より公募開始**

### 当基金により当社へ期待される影響

- 技術実証機等の月面輸送ニーズ拡大に伴い、当社の**ペイロードサービスのビジネス機会**に繋がられる可能性
- 顧客が月ミッションを行う際に、有用なデータや通信を提供することで当社の**データサービスのビジネス機会**に繋がられる可能性

i s p a c e

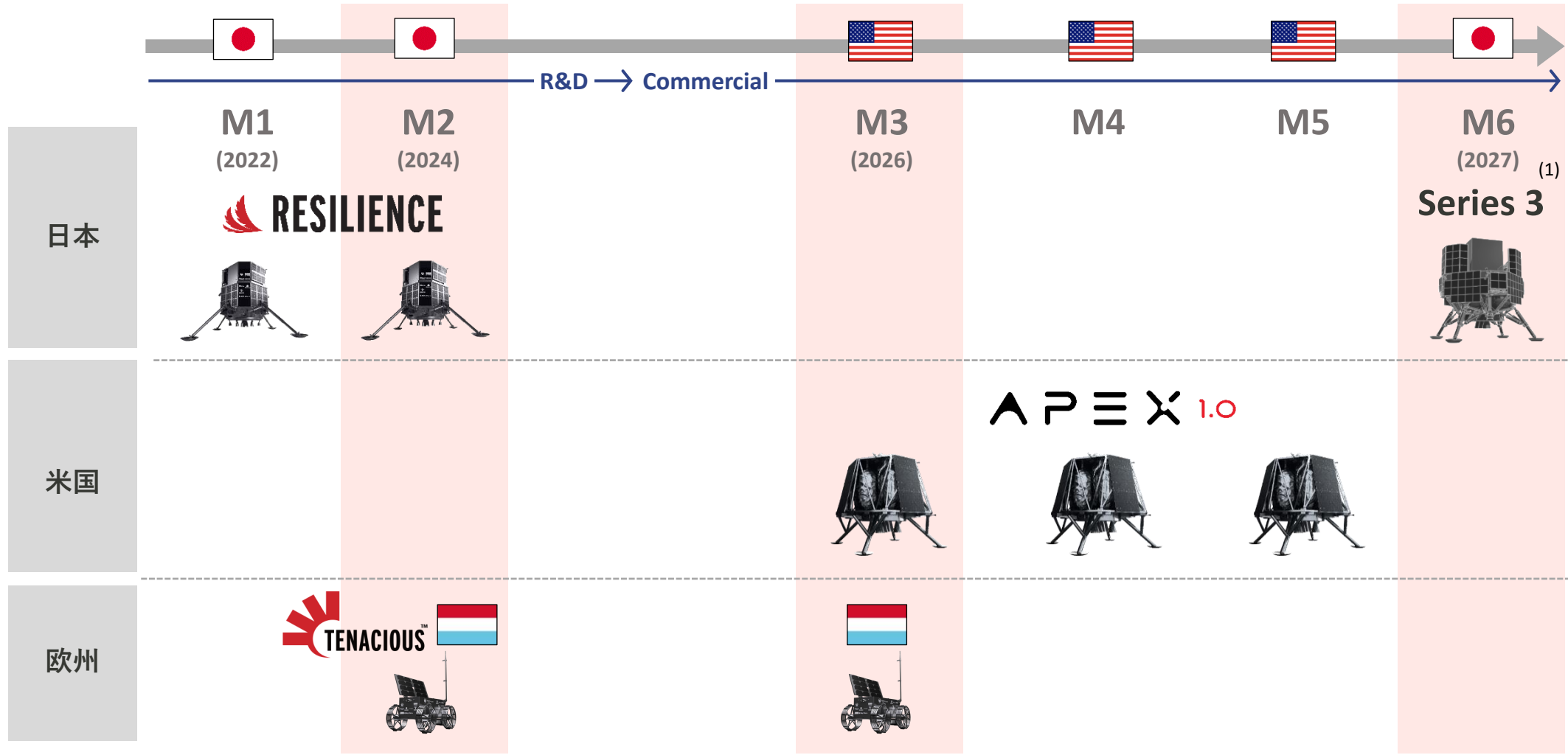
#### 【当基金のスキーム<sup>(1)</sup>】



(1) <https://www8.cao.go.jp/space/kikin/siryou1-1-1.pdf>

# 現在、ミッション2（2024年冬予定）・ミッション3（2026年予定）・ミッション6（2027年予定）向けの3機のランダー開発が日米両拠点で同時進行中

ispace



\* 上記はあくまでイメージです

\* 上記は現在想定しているミッション及び打上げスケジュールであり、変更となる可能性があります

(1) 2024/8/9現在の想定。今後変更の可能性のある仮称。画像のデザインは今後変更の可能性あります

# 2024年 Mission2

## ミッション全体像

- **2024年冬<sup>(1)</sup>**に打上げ予定
- **ミッション1を通して実証されたハードウェア**を再度活用したRESILIENCEランダー。ミッションの成熟度の向上、月面着陸技術の検証完了を目指す
- 欧州法人が開発した**マイクロローバー**を初めて実証予定。将来的な月面探査に向けた第一歩
- 月のレゴリスを採取しその所有権をNASAに譲渡する、**世界初となるNASAとの月資源商取引プログラム**を実施予定

## ペイロード顧客

営業完了

総契約金額:

約 \$ **16** MM<sup>(2)</sup>



水電解装置

国立中央大学  
(台湾)

放射線量計

ユーグレナ

藻類栽培装置

**BANDAI NAMCO**

“宇宙世紀憲章”  
プレート

## 使用するランダー等

環境試験の最終段階

### RESILIENCEランダー

#### サイズ

高さ約2.3m、幅約2.6m  
(着陸脚を広げた状態)

#### 重量

約1,000kg (Wet: 燃料装填時)  
約340kg (Dry: 無燃料時)

#### ペイロード積載可能容量

最大30kg



**RESILIENCE**

### TENACIOUSマイクロローバー

#### デザイン

月面輸送中の振動に耐えられるよう軽量化

#### 重量

約5kg

#### ペイロード積載可能容量

最大1kg



**TENACIOUS™**

(1) 現在想定しているミッション及びスケジュールであり、変更となる可能性があります

(2) 2024/8/9時点。数値は小数点以下切り捨てとなっています

2024年

## Mission2

開発進捗

## RESILIENCEランダーの熱真空試験が完了、2024年冬の打上げに向け最終段階



筑波にあるJAXA設備にて、ispaceエンジニアがRESILIENCEランダーを大型チャンバー（真空と熱環境を模擬した環境）に移動する様子

全ての熱真空試験が完了

- 10日間にわたる試験で、**全ての試験項目で成功基準を満たした**ことを確認
- ランダーの電源系、航法誘導制御系機器（GNC）、通信系、熱制御系が、実際の宇宙空間での航行を模した環境で正常に作動することを確認
- ランダーに搭載された通信系を利用し、ランダーシステムへの接続評価や、コマンドの送信、計測機器からのデータ受信など、実際の航行を想定した操作も確認

\*本試験完了に関する詳細は、2024/6/27開示の「[「HAKUTO-R」ミッション2 RESILIENCEランダーの熱真空試験を完了をご参照ください](#)」

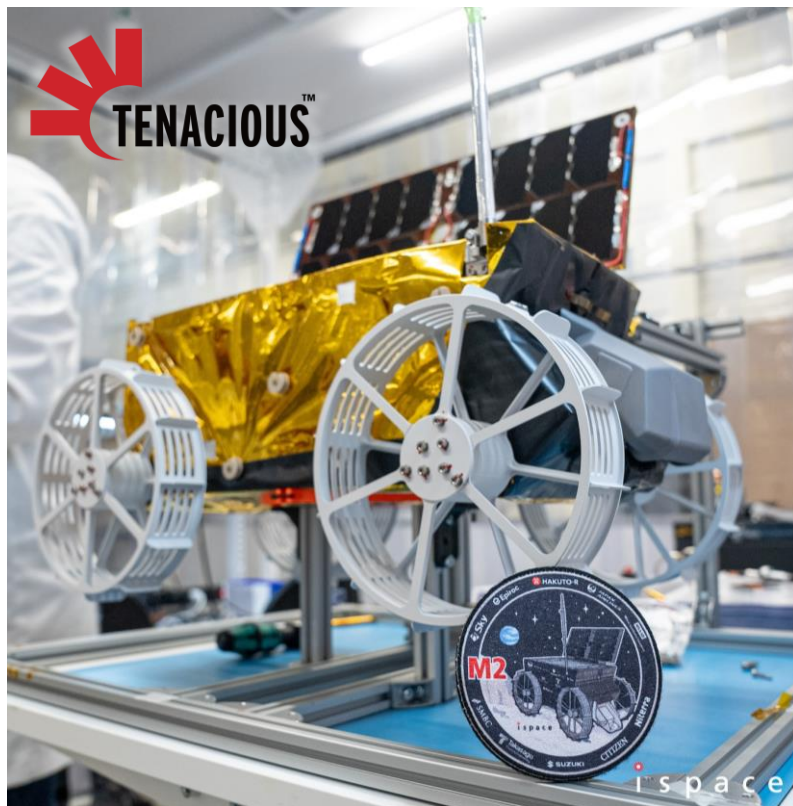


2024年

# Mission 2

開発進捗

マイクロローバー「TENACIOUS」のフライトモデル<sup>(1)</sup>組立完了し、日本へ到着。いよいよランダー搭載へ



組立が完成したフライトモデルのマイクロローバーTENACIOUS（テネシアス）

欧州法人開発のフライトモデル<sup>(1)</sup>の組立が完了

- 前四半期（2024年3月期Q4）にエンジニアモデル<sup>(2)</sup>の認定試験を完了した後、**フライトモデル<sup>(1)</sup>の組立が完了**
- RESILIENCEランダーへの搭載に向け、8月上旬にルクセンブルクから日本への輸送が完了
- 本マイクロローバーを「**粘り強さ**」を意味する「**TENACIOUS（テネシアス）**」と命名。本マイクロローバーを独自に設計・製造した欧州法人チームの弛まぬ努力と、約5kgと小型でありながら月面探査という壮大なミッションに挑むため努力し続ける決意を体現

\*詳細は、2024/7/25付のプレスリリース「[ispace-EUROPE、欧州初&欧州発の月面探査用マイクロローバー組立完成](#)」をご参照ください

(1) 実際に打ち上げるモデル

(2) 基本設計に基づき製作されるモデル

i s p a c e



RESILIENCE

**M2** approaching

Winter 2024

Follow us  
on social media!!



# 2026年 Mission3

## ミッション全体像

- **2026年<sup>(1)</sup>**に打上げ予定
- **NASA CLPS Task Order** CP-12 Draperチームのメンバーに選出
- **最大300kg**のペイロード輸送が可能 – RESILIENCEランダーの10倍以上
- 月の裏側、南極付近への輸送を計画
- **2基のリレー通信衛星**を搭載し、月周回軌道へ投入予定

## ペイロード顧客

営業進行中

総契約金額:

約 \$ **57** MM<sup>(2)</sup>

**NASA**

複数実験機器の輸送と実験



自律航法誘導制御機器

**CDS**  
WIRELESS

超広帯域無線システム

## 使用するランダー等

ランダーCDR<sup>(3)</sup>完了予定 (2024年夏)

### APEX 1.0ランダー

#### サイズ

高さ約3.1m、幅約4.5m (着陸脚を広げた状態)

#### 重量

約5,390kg (Wet: 燃料装填時)

約1,730kg (Dry: 無燃料時)

#### ペイロード積載可能容量

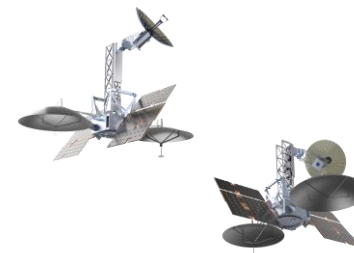
最大300kg

### 衛星

Blue Canyon Technologies社が提供する衛星バスを基に開発されたリレー通信衛星2基

### マイクロローバー

Mission2に続き搭載予定



**APEX 1.0**

(1) 現在想定しているミッション及びスケジュールであり、変更となる可能性があります  
 (2) 2024/8/9時点。数値は小数点以下切り捨てとなっています  
 (3) Critical Design Review (CDR): 詳細設計審査会。製造と試験の詳細設計と検証計画が適正かを、これまで

に実施した施策評価、熱構造特性の評価、電気機械設計等の評価を活用して確認する審査会で、当社の開発における重要マイルストーン

2026年

# Mission3

開発進捗

## NASA及びDraper同席のもと、技術調整会議を実施



技術調整会議の様子

技術調整会議の実施により情報連携を強化

- 米国法人にて、ミッション3のペイロード顧客であるNASA及びNASAとの契約主体であるDraperも同席の上、技術調整会議を過去数度にわたり実施
- 技術調整会議は、当社の重要な開発KPIの1つであるCDR<sup>(1)</sup>完了の確度を高めるべく、技術的な課題の解決や情報連携、関係者の横断的なコミュニケーションに重きを置いて実施される
- 技術調整会議の結果を踏まえ、**今年夏のCDR<sup>(1)</sup>完了に向けて順調に進捗**

(1) Critical Design Review (CDR): 詳細設計審査会。製造と試験の詳細設計と検証計画が適正かを、これまでに実施した施策評価、熱構造特性の評価、電気機械設計等の評価を活用して確認する審査会で、当社の開発における重要マイルストーン

2026年

# Mission3

開発進捗

米国法人拠点にてクリーンルーム設置が進捗中。今後の開発に向けた環境を整備



米国法人拠点で設置中のクリーンルーム

米国法人拠点のクリーンルーム設置が進む

- ミッション3の開発を担う米国法人にて、ISO規格クラス7（精密な組立を行うのに必要な清浄度）のクリーンルームを設置中
- ミッション3で使用する重要な部品の検査・製造・試験に必要な環境を整備

# 2027年 Mission6

## ミッション全体像

- **2027年<sup>(1)</sup>**に打上げ予定
- **SBIR制度<sup>(2)(3)</sup>における最大額<sup>(4)</sup>の120億円**にのぼる補助金の交付決定により開発費用の一部を確保済

SBIR

Small Business Innovation Research<sup>(2)</sup>



補助金

**120**億円

## ペイロード顧客

未定

見込み顧客と協議中

## 使用するランダー等

ランダーPDR<sup>(5)</sup>完了予定 (2024年秋)

### Series 3ランダー<sup>(6)</sup>

#### サイズ

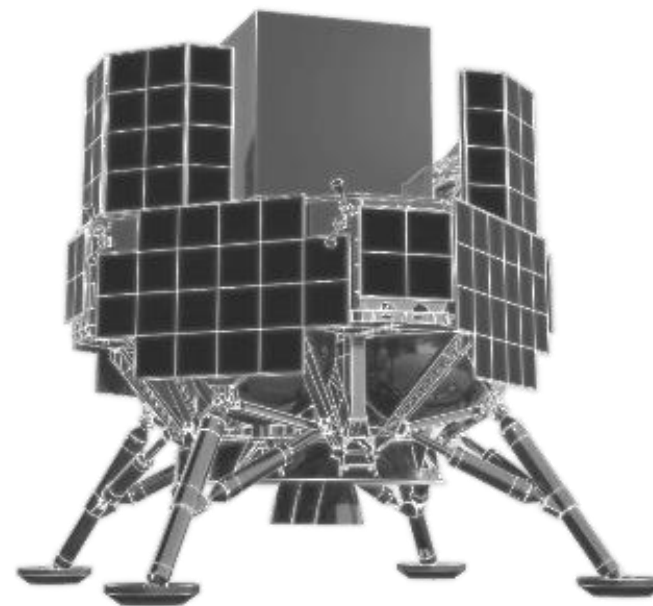
高さ約3.6m、幅約3.3m  
(着陸脚を広げた状態)

#### 重量

約1,000kg  
(Dry: 無燃料時)

#### ペイロード積載可能容量

最大数百kg



(1) 現在想定しているミッション及びスケジュールであり、変更となる可能性があります  
 (2) 経済産業省より採択。最低100kgのペイロードを月面輸送出来るランダーを開発し、2027年中に打ち上げることが要件  
 (3) 本補助金は一括受領ではなくSeries 3ランダーの開発支出にあわせて受領となる見込みであり、営業外収益として計上される予定

(4) 2024/8/9現在  
 (5) Preliminary Design Review (PDR): 基本設計審査会。仕様値に対する設計結果、設計検証計画の実現性を確認する審査会で、当社のランダー開発における重要マイルストーン  
 (6) 今後変更の可能性がある仮称。画像のデザインは今後変更の可能性があります

2027年

# Mission6

開発進捗

## 今年秋のPDR<sup>(1)</sup>完了を目指し、各システムの概念設計等を審査



Series 3 ランダー<sup>(2)</sup>の推進系サブシステムの開発を行う、日本法人のPropulsionグループ（一部）

Series 3 ランダー<sup>(2)</sup>の基本設計が進行中

- 当社が開発するランダーシステムは、推進系、誘導・航法・制御、通信、構造、電力等の様々なサブシステムから構成されており、現在、サブシステムごとにPDR<sup>(1)</sup>を段階的に実施中
- 7月下旬に推進系サブシステムのPDR<sup>(1)</sup>が完了。当サブシステムの概念設計や製造開発の計画及びスケジュール等を審査し、主な推進系コンポーネントの発注製造フェーズへ移行を確認
- 今後も引き続きサブシステムごとの基本設計審査を実施し、**今年秋にPDR<sup>(1)</sup>を全て完了**させることを目指す

(1) Preliminary Design Review (PDR): 基本設計審査会。仕様値に対する設計結果、設計検証計画の実現性を確認する審査会で、当社のランダー開発における重要マイルストーン

(2) 今後変更の可能性がある仮称

new

# MOU 新たに韓国の企業とグローバル顧客の開拓に繋がるMOUを締結



左からispace代表取締役CEO&Founder袴田武史、Boryung Corporation Chairman and CEO ジェイ・キム氏

## Boryung Corporation（韓国）とのMOU締結

- ヘルスケアへの投資を行う韓国企業、Boryungとの間で2024/5にMOUを締結
- 当MOUは、Boryungが主催する宇宙ヘルスケアに関するコンテスト（Human In Space Program）<sup>(1)</sup>において、当社がアイデアの実現性を評価すること及び月面輸送ニーズがあるアイデアの実証サポートを企図
- 当プログラムへの参画により、ヘルスケア業界含む幅広い業界とのネットワークを拡充し、**ポテンシャル顧客との接点・営業機会の獲得を狙う**

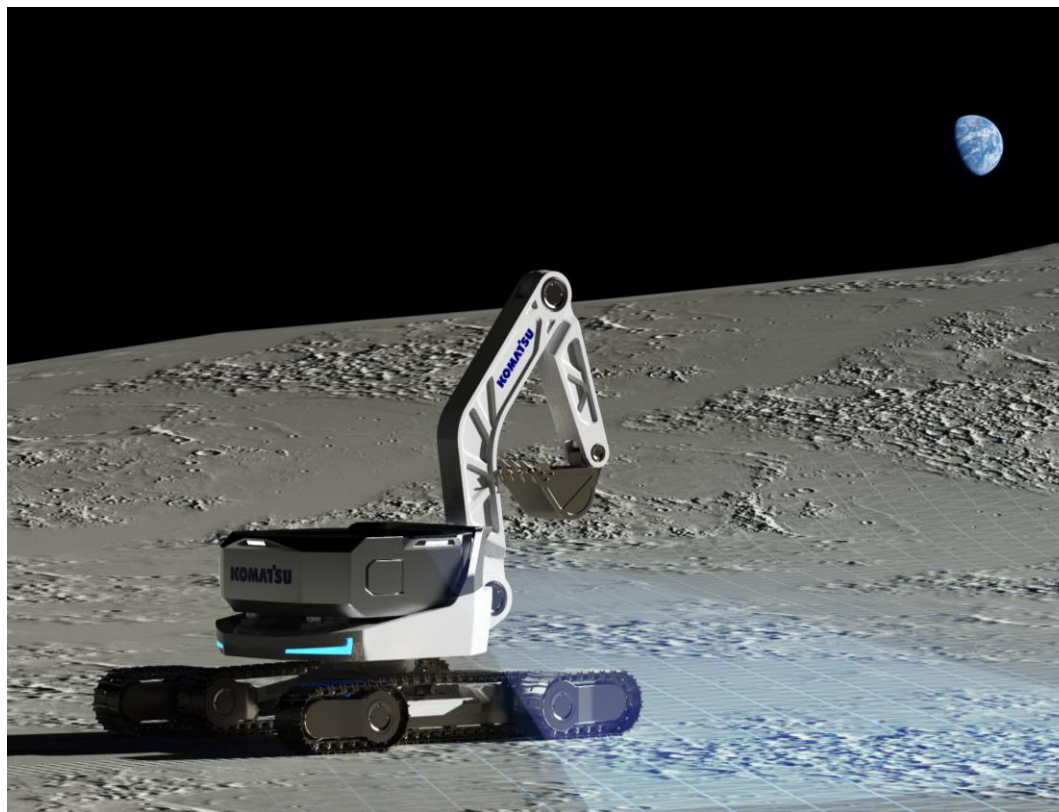
(1) Human In Space 2024 Challengeに関する詳細: [https://humansinspaceofficial.com/html/front/contents/his2024\\_challenge.do](https://humansinspaceofficial.com/html/front/contents/his2024_challenge.do)



new

# Contract

## コマツと月面環境対応を考慮した機器の設計に係るコンサルティング契約を締結



月面環境に適応する建設機械（イメージ）（提供:コマツ）

ispaceがコマツに対し、宇宙機開発に関するコンサルティングを提供

- 建設・鉱山機械メーカー、コマツと2024/7にコンサルティング契約を締結
- コマツは、スターダストプログラムの一環として2021年より国土交通省及び文部科学省連携の宇宙無人建設革新技術開発推進事業<sup>(1)</sup>に採択されており、本年も継続選定が決定<sup>(2)</sup>。将来構想として、月面機器の開発を目指しており、試験機の設計や月面環境で使用可能な部品・素材の選定等において、当社がコンサルティングを提供
- コマツだけでなく、当社の知見を政府プログラムへ採択された企業・大学等へ提供するとともに、それに伴う月面での実証実験等で拡大が予想される月面輸送ニーズの獲得を狙う

(1) 「宇宙無人建設革新技術開発推進事業(国交省主担当、文科省連携)」に関する令和6年度プレスリリース: [https://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo08\\_hh\\_001089.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo08_hh_001089.html)

(2) (1)の記者発表資料: <https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001739791.pdf>

new

# Financing

複数ミッションの同時開発を進める運転資金として、当社過去最大規模のデットファイナンスとなる100億円を新たに調達

計 **100** 億円

アレンジャー兼エージェント



三井住友信託銀行

SBI 新生銀行

コアレンジャー



みずほ銀行

商工組合中央金庫

あおぞら銀行

りそな銀行

## 新たなシンジケートローン契約の締結

- 2024/7に、計7行により組成されるシンジケートローン契約<sup>(1)</sup>を締結
- 当社の事業進捗及びミッション計画についてご理解を頂き、無担保・無保証で、**3年3カ月の長期借入・100億円を組成**
- 主に当社のミッション3、ミッション6の開発費用に充当
- 今回の新規資金調達により、当社のデット及びエクイティでの累計調達額は656.4億円に

(1) 詳細は、2024/7/12付の適時開示及び [プレスリリース](#) をご参照ください

# 02

## 財務ハイライト

コンテンツ：

- 損益計算書
- サービス別売上高推移
- 貸借対照表
- 当社KPI
- ビジネスモデルイメージ



## 為替差益の計上により営業損失と比して当期純損失が縮小

(単位：百万円)	2025年3月期	2024年3月期（前年度）		2025年3月期（予想）	
	Q1実績	Q1実績	増減率	通期予想 <sup>(2)</sup>	進捗率
売上高 <sup>(1)</sup>	635	815	△22.1%	4,033	15.7%
売上総利益	107	571	△81.2%	522	20.5%
売上総利益率	16.9%	70.1%	-	12.9%	-
販売管理費	2,402	1,681	+42.9%	13,688	17.5%
営業損益	△2,295	△1,109	-	△13,165	-
経常損益	△1,576	△1,375	-	△12,461	-
当期純損益	△1,579	△1,374	-	△12,465	-

### Point: 前年同期との比較

- **売上高：**  
前年同四半期比では減少するも、これは前年ではミッション1完了に伴う一時的な売上増（575百万円）があった影響。今四半期は主にミッション3からの売上が牽引し、またその寄与が増してきている状況
- **営業損益：**  
主に、ミッション完了による売上一括計上がなかった影響に加え、各ミッションの開発進捗に伴い販売管理費が前年同四半期比で増加したことにより、営業損失が前年同四半期比で拡大（詳細は次項）
- **当期純損益：**  
主に約858百万円の為替差益を計上したことにより営業損失と比して損失縮小、前年同四半期比でも概ね近い損失水準で着地

(1) 当社は現在、ミッション1-3の売上計上においてそれぞれ原価回収基準を会計処理に用いており、原価としての費用発生分が売上に計上されるため、費用発生が増加に連動して売上が増加する見込み。ミッション完了時に原価発生分を超える売上が未計上の場合には一括で売上処理される仕組み

(2) 2024/5/10開示

## ミッション開発の進捗に伴い研究開発費が前年同四半期比で増加

(単位：百万円)	2025年3月期	2024年3月期（前年度）	
	Q1実績	Q1実績	増減率
研究開発費	1,411	1,065	+32.4%
給料及び手当	475	222	+114.0%
その他	516	393	+31.1%
販売管理費の合計	2,402	1,681	+42.9%

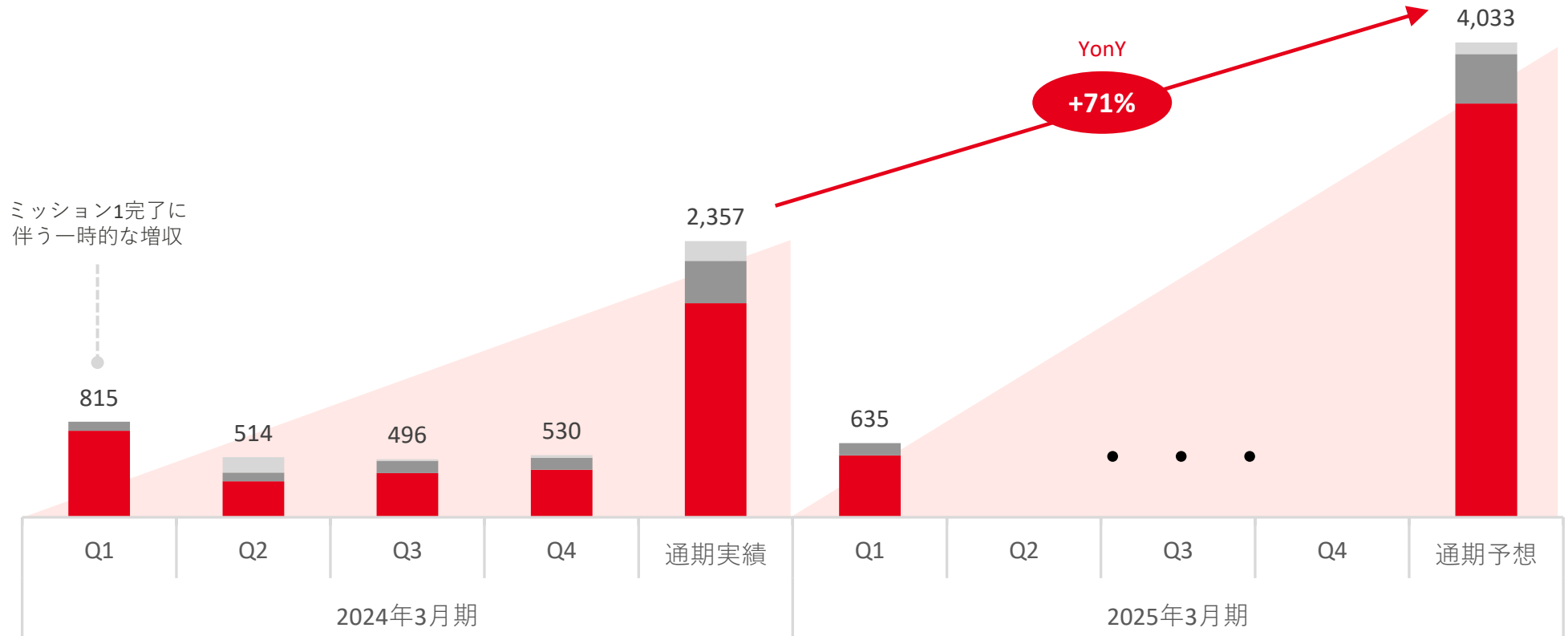
### Point: 前年同期との比較

- **研究開発費：**  
主に、R&D（研究開発）の位置づけである日本のミッション2の開発費が前年同四半期比で増加したことに加え、商業ミッションの位置づけである米国のミッション3関連費用の一部が研究開発費として計上される分も前年同四半期比で増加
- **給与及び手当：**  
主にミッション3の開発が本格化している米国拠点において、従業員数が前年同期比で53名増加したことに加え、物価高騰の影響を鑑みて給与水準を調整したこと及び円安の影響により、前年同四半期比で給与及び手当が増加

## 主にミッション3によるペイロード売上が牽引し、通期では71%の増収を見込む

■ ペイロード ■ パートナーシップ ■ その他

(百万円)



## ミッション2及び3の順調な開発進捗に伴い、前渡金・前受金及び固定資産が前期末対比で増加

(単位：百万円)	2025年3月期Q1 (2024/6/30)	2024年3月期 (2024/3/31)	
	実績	実績	増減率
流動資産合計	21,220	21,784	△2.6%
内 現金及び預金 <sup>(1)</sup>	12,673	14,315	△11.5%
内 短期前渡金	4,928	4,228	+16.6%
固定資産合計	5,341	5,248	+1.8%
内 有形固定資産	3,092	2,462	+25.6%
内 長期前渡金	1,965	2,560	△23.2%
総資産合計	26,561	27,033	△1.7%
流動負債合計	12,076	10,503	+15.0%
内 前受金	3,214	3,190	+0.7%
固定負債合計	6,471	6,784	△4.6%
内 長期借入金 <sup>(1)</sup>	6,224	6,538	△4.8%
純資産合計	8,013	9,745	△17.8%
(有利子負債 <sup>(1)</sup> )	14,054	12,518	+12.3%

### Point: 前期末との比較

#### 資産：

- **現預金<sup>(1)</sup>**：ミッション3のリレー衛星の一部支払い等を主因とした、ミッション費用の支払い拡大に伴い、前期末対比で1,642百万円減少（なお2024/7実施の100億円のシンジケートローンは未反映）
- **有形固定資産**：主にミッション3のリレー衛星の支払い分を建設仮勘定として2,474百万円計上したことにより、前期末対比で増加

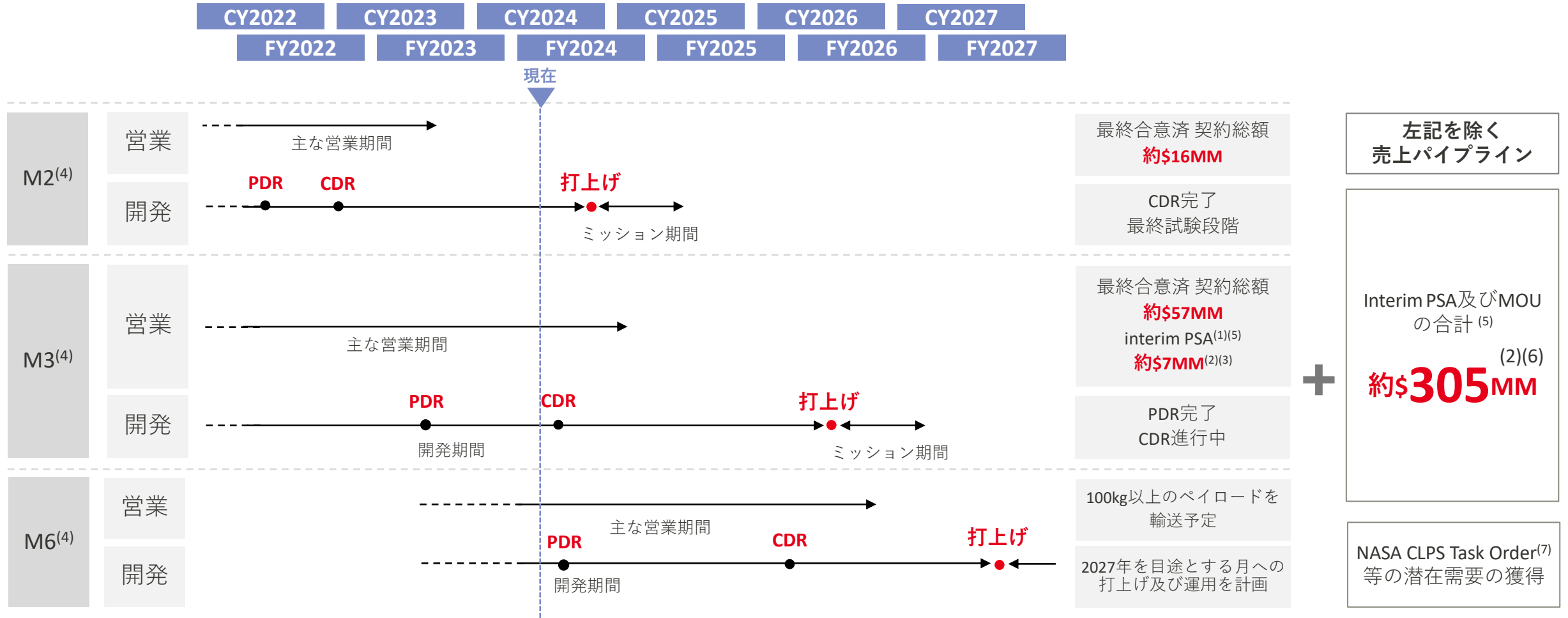
#### 負債：

- **前受金**：主にNASA CLPSに伴うDraperからの入金
- **有利子負債<sup>(1)</sup>**：既存借入金の返済があったものの、新たに三井住友銀行から2024年4月末に短期及び長期借入を行ったため、前期末対比で増加

i s p a c e

(1) 2024/6時点において2024/7締結のシンジケートローンによる長期借入100億円は未計上

# ミッション3ランダー開発のCDRは本年夏に完了予定。ミッション3以降の営業面では、引き続き約\$312MMの売上パイプラインからのinterim PSA<sup>(1)</sup>の最終合意化及び新規PSAの獲得を目指す



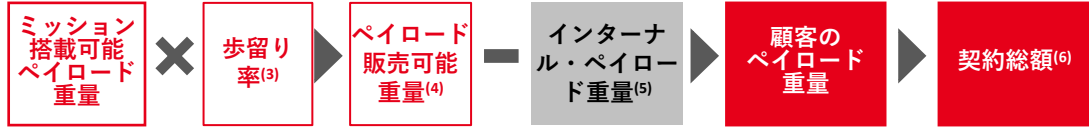
(1)Interim Payload Service Agreement ペイロードサービス中間契約：最終合意となるPSA契約を締結するための交渉の前提となる文書  
 (2)2024/8/9時点  
 (3)ミッション4以降となり得る金額を含む  
 (4)ミッション2以降は現在の想定スケジュール  
 (5)小数点以下切り捨て。上記のMOU及びinterim PSAは法的拘束力を有しないものであり、これらのinterim PSAに基づき法的拘束力のある契約を

締結できる保証はありません。また、仮に法的拘束力のある契約が締結されたとしても、当該契約に基づく重量及び金額は、本資料に記載された金額と異なる可能性もあります  
 (6)MOUおよびInterim PSAの契約総額は、文書に記載された各契約額で集計（小数点以下切り捨て）。価格やペイロード量に幅がある場合は、低い方の数値を適用して契約金額を算出。また、契約書に価格の記載がない場合、弊社が想定する標準サービス価格を適用して契約金額を算出  
 (7)2023/11/21付の適時開示にてお知らせの通り、受注に向けた提案を行っていたCLPS Task Order CP-22に対し、2024/5に再度応札



# ペイロードサービスのビジネスモデルイメージ

イメージであり、変更される可能性があります。また、全ての数値は小数点以下切り捨てとなっています



	ミッション搭載可能ペイロード重量	歩留り率(3)	ペイロード販売可能重量(4)	インターナル・ペイロード重量(5)	顧客のペイロード重量	契約総額(6)
M1	30kg		12kg		12kg	\$10MM
M2	30kg		11kg		11kg	\$16MM
M3	300kg		145kg		95kg (CP-12) 50kg	\$57MM
M4	500kg	33%	167kg	30kg	137kg	× 想定単価(7)
M5		33%	167kg	30kg	137kg	
M6		39%	196kg	45kg	151kg	
M7		39%	196kg	45kg	151kg	
M8		42%	211kg	50kg	160kg	
M9		42%	211kg	50kg	160kg	
M10		44%	219kg	50kg	168kg	

現在

各会計年度に計上されるミッションの売上(2)

	CY2023	CY2024	CY2025	CY2026	CY2027	CY2028
	FY2023	FY2024	FY2025	FY2026	FY2027	FY2028
M1						
M2		L				
M3				L		
M4					L	
M5						L
M6						L
M7						L
M8						L
M9						L
M10						L

(1) 本資料は、将来のペイロード・サービスに関して、一定の仮定に基づき想定している現時点のイメージであり、ミッションの内容・時期その他の詳細は実際の将来の結果とは異なる可能性があります  
 (2) 2024/8/9時点の打上げ予定に基づきます。このスケジュールは変更される可能性があり、計画通りに進行しない可能性もあります  
 (3) ペイロード販売可能重量が設計上のミッション搭載可能ペイロード重量に占める割合であり、一定程度のバッファを見込んだ値となっています。主に以下2つの要因により制約を受けます。①開発における不確実要因（ランダー側の不確実要因、顧客ペイロード事由の不確実要因（インターフェース調整等））、②販売成功率（需要及び販売能力の不確実性）  
 (4) インターナル・ペイロード重量と顧客の販売可能重量の合計です

(5) 2024/8/9時点の当社想定に基づく、当社が使用するペイロード重量です  
 (6) ミッション1、2、3については、2024/8/9時点の各PSAに基づく契約金額を記載しています  
 (7) 2024/8/9時点のペイロードの想定単価は約1.5MMドル/kgであり、この想定単価は今後一定程度通減していくと当社は見込んでいます  
 (8) 当社の想定する次の要因により、歩留まり率は向上を見込んでいます。①市場の需要拡大、②経験による技術改善及び③販売チームの拡充  
 (9) ミッション1のSuccess 9-10が完了出来なかったことに伴い、売上計上不可となった金額は約98百万円（2024/3/26開示の英文目録見書の通り）

## 上場後株主様との初の定時株主総会は「顔が見える株主総会」がコンセプト



第1部トークセッション（取締役及び監査役による対談）の様子



第2部トークセッション（当社CXO及び海外拠点CEOによる対談）の様子

- 2024/6/28、当社上場後株主様との初の定時株主総会を開催
- より**近い距離での株主様との対話を企図し、株主様から事前に頂いたご質問を中心にテーマを組んだ「トークセッション」も実施**
- 第1部は、「日本発・日本初の月面ビジネスを支える取締役会のガバナンス」と題し、取締役及び監査役が対談
- 第2部は、「ispaceの月面着陸ミッション：シスルナ経済圏構築へ向けて」と題し、執行部隊である当社CXO及び海外拠点CEOが対談

## グローバルな宇宙ビジネスの先頭を走り続けるべく、取締役7名の再任が決議された



(左奥から) 監査役 ispace 井上、取締役 牧野氏、取締役 中田氏、監査役 内藤氏、取締役 ispace 野崎、取締役 赤浦氏、  
(左手前から) 取締役 川名氏、代表取締役 ispace 袴田、取締役 畑田氏、監査役 轟氏

### 再任された取締役7名

- 代表取締役：CEO & Founder 袴田 武史
- 取締役：CFO 野崎 順平
- 社外取締役：インキュベイトファンド株式会社  
ジェネラルパートナー 赤浦 徹 氏
- 社外取締役：ルブリスト株式会社 代表取締役  
川名 浩一 氏
- 社外取締役：アクチュアリ株式会社 代表取締役  
中田 華寿子 氏
- 社外取締役：株式会社IHI 顧問 牧野 隆 氏
- 社外取締役：将来宇宙輸送システム株式会社  
代表取締役 畑田 康二郎 氏

## 9月に2つの個人投資家向けIRセミナーに参加予定

投資WEB 第196回  
東京IRセミナー同時中継  
**ispace**  
(アイスペース)  
【証券コード:9348・グロース】  
**2024. 9. 7 (土)**  
**LIVE** 14:00～14:50

取締役CFO  
野崎 順平氏

金融アナリスト  
三井 智映子氏

9/7 (土) 14:00～14:50 @ハイブリッド開催

日時	9/7日 (土) 13:00～16:40 内、当社登壇時間：14:00～14:50
形式	ハイブリッド形式 (会場 (東京) ・ライブ配信)
定員	会場：150名、ライブ配信：定員無し
登壇者	取締役CFO 野崎 順平

ログミー IR MEET 2024秋  
特別企画  
宇宙ベンチャー トップ対談  
**15:05～15:40**

参加申込受付中!

袴田 武史氏  
ispace (9348)  
代表取締役 CEO

大西 俊輔氏  
QPS研究所 (5595)  
代表取締役社長 CEO

9/8 (日) 13:05～13:55 & 15:05～15:40  
@ハイブリッド開催

日時	9/8 (日) 13:00～16:45 内、当社登壇時間：13:05～13:55 内、QPS研究所様との対談：15:05～15:40
形式	ハイブリッド形式 (会場 (東京) ・ライブ配信)
定員	会場：150名、ライブ配信：定員無し
登壇者	代表取締役CEO 袴田 武史

# 03

## Appendix

### コンテンツ：

- 当社の事業概要
- ミッション1について
- 開発KPI
- 営業KPI（ペイロードサービスの売上認識）
- 持続可能なビジネスモデル
- 業績推移
- 用語集

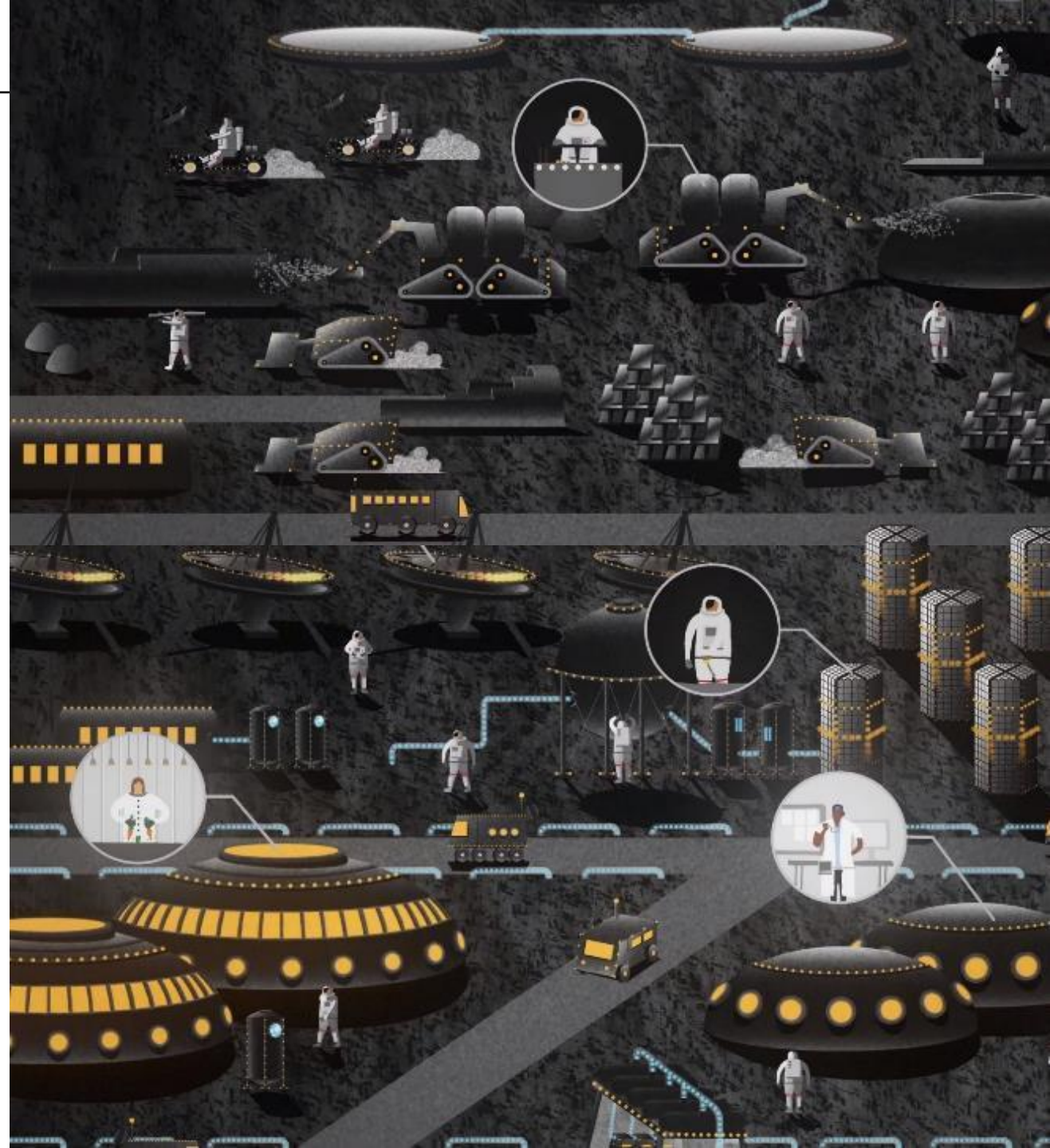


## EXPAND OUR PLANET. EXPAND OUR FUTURE.

地球と月がひとつのエコシステム  
となる世界を築くことにより、  
月に新たな経済圏を創出する

ispace

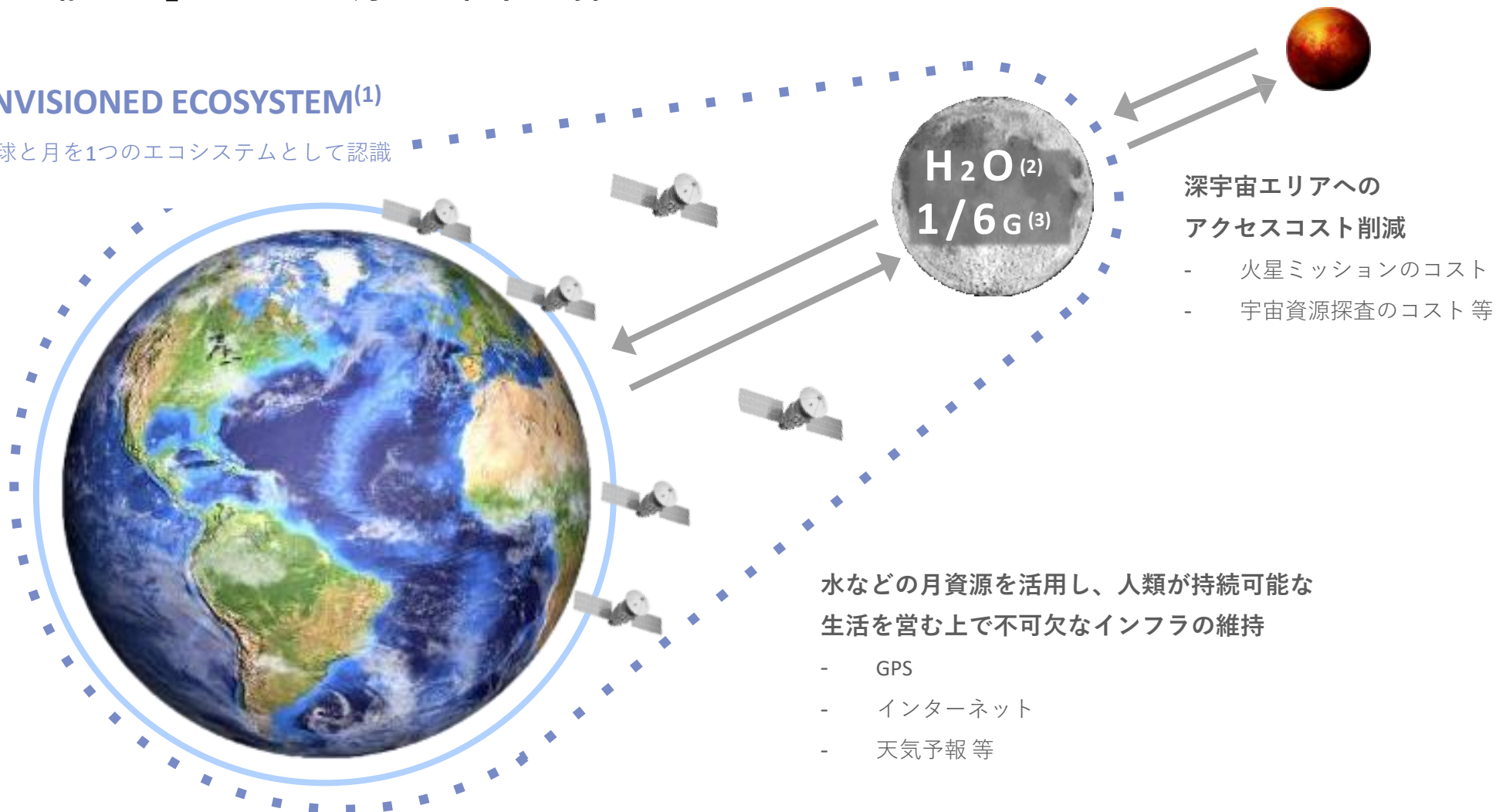
- “Moon Valley 2040” はispaceのビジョンであるEXPAND OUR PLANET. EXPAND OUR FUTURE. の世界観を表したものです。
- 2040年代までに1,000人が月面に居住し年間10,000人が月に訪れる世界を構想しています。
- 月に存在するとされる水資源を中心に、建設・製造・エネルギー・通信など様々な業界の後押しを受け、月面のインフラが確立され得ると考えています。
- 人間の生活圏を宇宙にまで拡大し、地球と月がひとつのエコシステムとなる世界を築くことを長期のゴールとしております。



## 月に存在するとされる水資源を活用することで、宇宙における「燃料補給中継基地」としての月の可能性を探る

### ENVISIONED ECOSYSTEM<sup>(1)</sup>

地球と月を1つのエコシステムとして認識



深宇宙エリアへの  
アクセスコスト削減

- 火星ミッションのコスト
- 宇宙資源探査のコスト等

水などの月資源を活用し、人類が持続可能な生活を営む上で不可欠なインフラの維持

- GPS
- インターネット
- 天気予報等

(1) 上図はあくまでイメージです

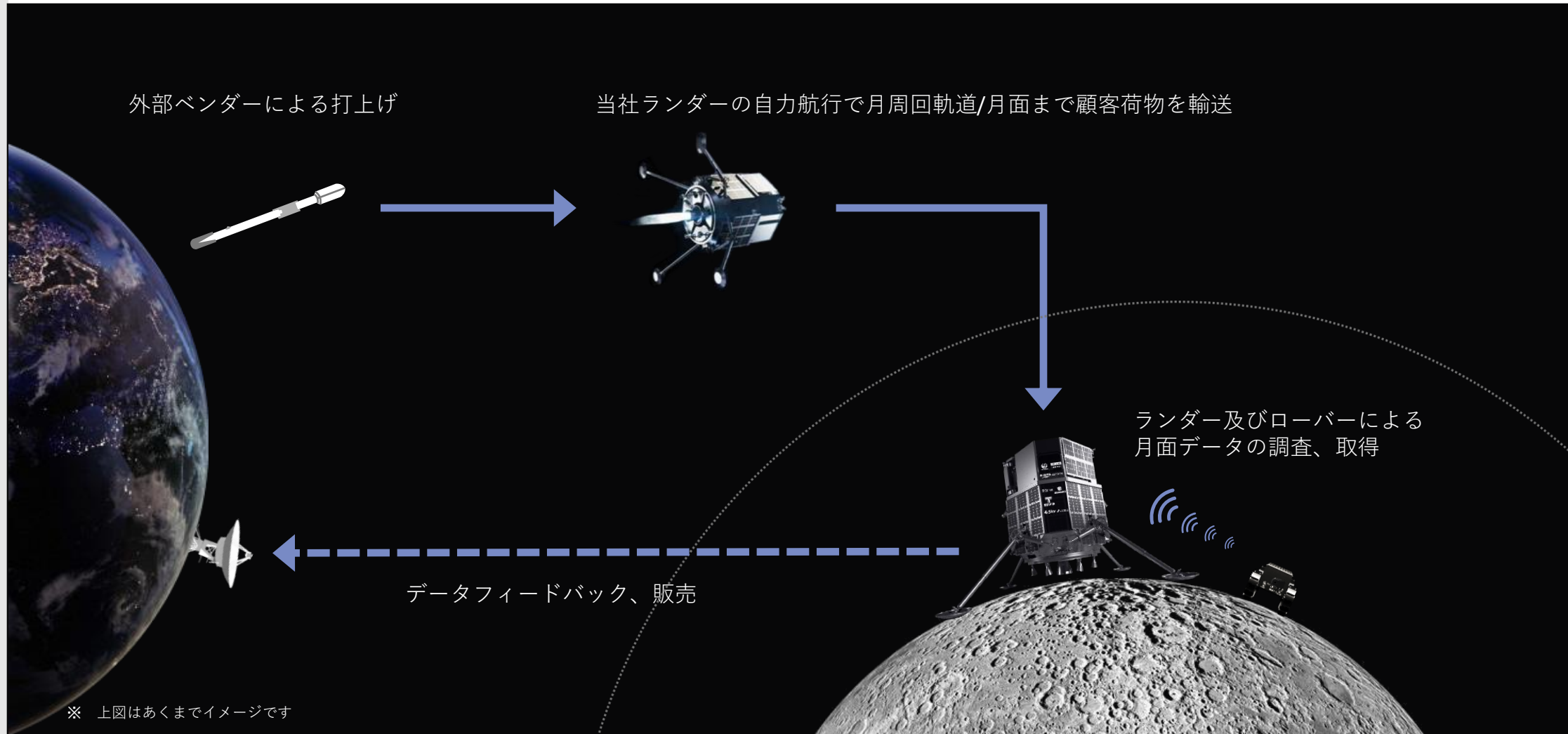
(2) 研究によると水は月に広く分布している可能性が示唆されています。月面で抽出した水を水素と酸素

(3) に電気分解し、燃料源として利用できる可能性があると考えています

月は地球の1/6の重力しかないため、月の打上げコストは理論上地球より低くなります

外部ベンダーを利用し、打ち上げたランダーは自力で月へ航行し、着陸後はランダー及びローバーによって月面データを調査、取得する

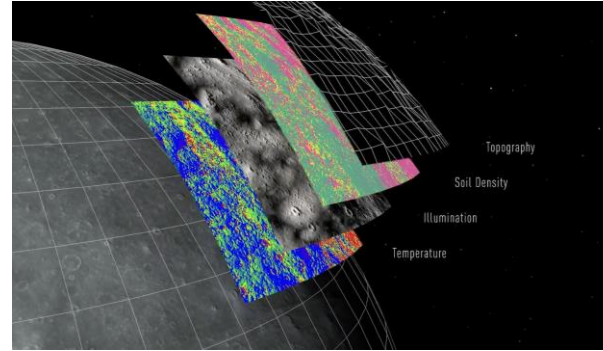
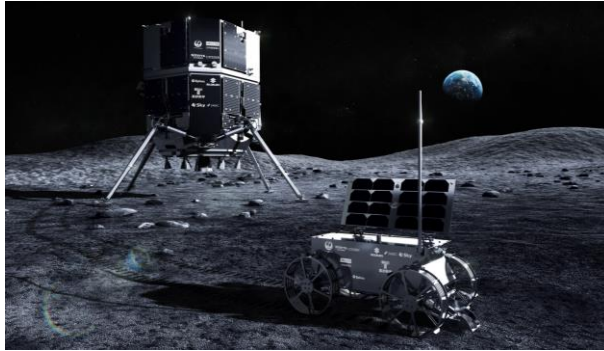
i s p a c e



※ 上図はあくまでイメージです



## ペイロードサービス及びパートナーシップサービスが現在のビジネスの中核。今後新たにデータサービスの確立を見込む



ispace

### ペイロードサービス

#### 当社の売上高を牽引する中核サービス

- 顧客の荷物を預かり、月周回軌道/月面まで輸送するサービス
- 顧客は必要な実験等を実施の上、月周回軌道/月面のペイロードから必要なデータを獲得

### データサービス

#### 今後の成長ドライバー

- 当社の自社ペイロードを使って顧客は必要なデータを獲得
- 将来的には、高頻度なミッションにより蓄積されたデータベースへのアクセスを顧客に提供する計画
- 2025年3月期Q1期間において、売上は未計上

### パートナーシップサービス

#### 創業時から続くサービス

- ispaceのランダー及びローバーにスポンサーとしてロゴを掲載し、顧客のマーケティングを支援
- また各社は技術面や事業開発面で、当社と協業を実施

\* データサービスに関する詳細は、2024/6/28開示の「事業計画及び成長可能性に関する事項」p.36-37をご参照ください

## 2022年、営利企業として初の月着陸船の打上げを成功

当社が公表しているミッションスケジュール<sup>(1)</sup>

2022      i s p a c e      **Mission 1**

2023

2024      i s p a c e      **Mission 2**

2025

2026      i s p a c e      **Mission 3**

2027      i s p a c e      **Mission 4**

2027      i s p a c e      **Mission 5**

2027      i s p a c e      **Mission 6**

<sup>(1)</sup> 2024/8/9時点。上記は現在想定しているミッション及びスケジュールであり、変更となる可能性があります

# Mission 1

## December 11, 2022

ケープカナベラルにて、当社ランダーを搭載したSpace X社のFalcon 9ロケットが打ち上がる様子



# 2022年（実施済） Mission 1

## ミッション全体像

- 2022年、**営利企業として初の月着陸船**の打上げに成功

技術的な成果

- **大部分のランダーハードウェアの実証に成功**
- 最終的な月面軟着陸に至らなかった要因はソフトウェア上の問題。2023年時点で**既に原因を解明し、ミッション2に向けた改善**を実施

モデルの実証

持続可能な  
ビジネス

- 軟着陸の失敗によるペイロード顧客への**返金は発生せず**。ミッション1完了後も、新規顧客および既存顧客からの引き合いが継続中
- **世界初の月保険**をパートナー企業と共に組成し、昨年37億円<sup>(1)</sup>の保険金を受領

## 使用するランダー等

### (旧) Series 1ランダー

#### サイズ

高さ約2.3m、幅約2.6m  
(着陸脚を広げた状態)

#### 重量

約1,000kg (Wet: 燃料装填時)  
約340kg (Dry: 無燃料時)

#### ペイロード積載可能容量

最大30kg



ispace

## ペイロード顧客

総契約金額:

約 \$ **10** MM<sup>(1)</sup>

Niterra

固定電池



月面探査  
ローバー



変形型月面  
ロボット

Mission Control  
Space Services

AIのフライト  
コンピューター

Canadensys  
Aerospace

カメラ



刻印パネル



HAKUTOの応援歌を収録した  
ミュージックディスク

(1) 数値は小数点以下切り捨てとなっています

ミッション1について - サクセスマイルストーン

最終的な月面着陸にまで至らなかったものの、設定した10のマイルストーンのうち8までを達成。  
着陸直前までの間に貴重な航行データを収集

Success 1 ✓  
打上げ準備の完了  
[2022/11/28に達成]

Success 2 ✓  
打上げ及び分離の完了  
[2022/12/11に達成]

Success 3 ✓  
安定した航行状態の確立  
[2022/12/16に達成]

Success 4 ✓  
初回軌道制御マヌーバの完了  
[2022/12/15に達成]

Success 5 ✓  
深宇宙航行の安定運用を  
1か月間完了  
[2023/1/11に達成]

Success 6 ✓  
月周回軌道投入前の全ての  
深宇宙軌道制御マヌーバの完了  
[2023/3/18に達成]

Success 7 ✓  
月重力圏への  
到達/月周回軌道への到達  
[2023/3/21に達成]

Success 8 ✓  
月周回軌道上での  
全ての軌道制御マヌーバの完了  
[2023/4/14に達成]

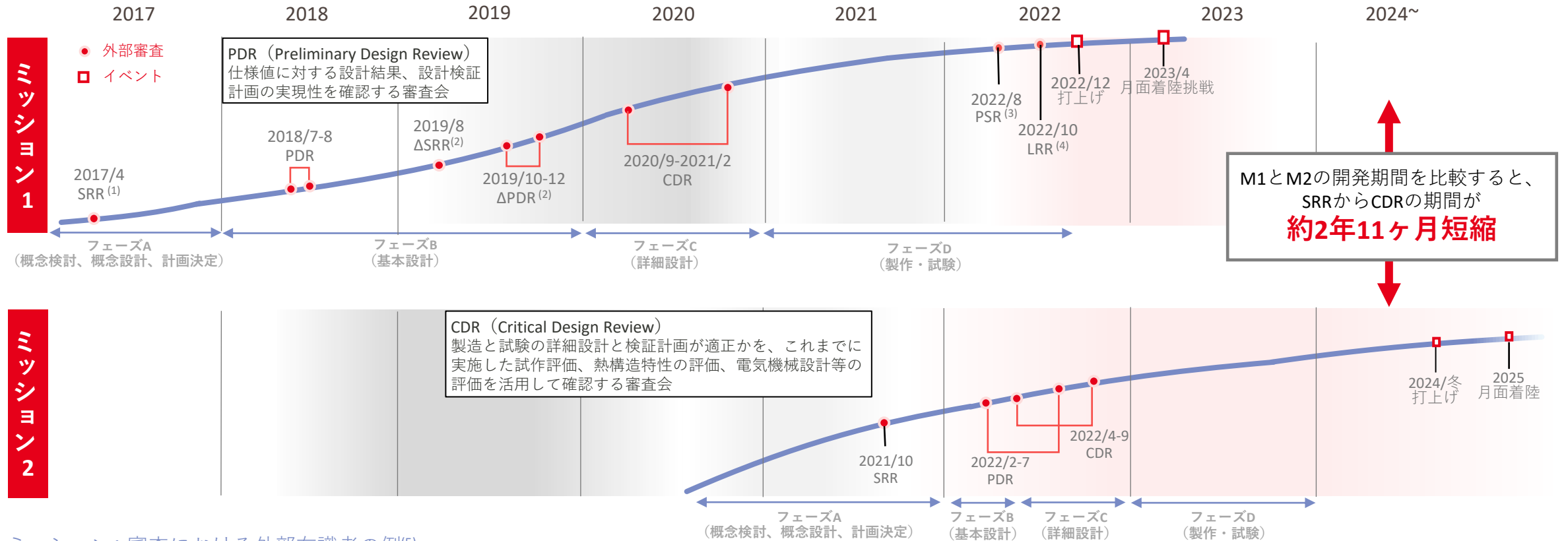
Success 9  
月面着陸の完了  
[未達]

Success 10  
月面着陸後の  
安定状態の確立  
[未達]

民間企業として初めて月面へ最終降下フェーズまで到達。今後のミッションに活用できる貴重なデータを獲得し、ミッション1の結果を踏まえたミッション2以降に係る方針を策定



# ミッション成功の確率を高めるため、マイルストーンごとに審査を実施。中でも本格的な資本投下の直前に設定されるPDR及びCDRは重要なKPI。ミッションを重ねるごとに効率化及び質の向上を図る

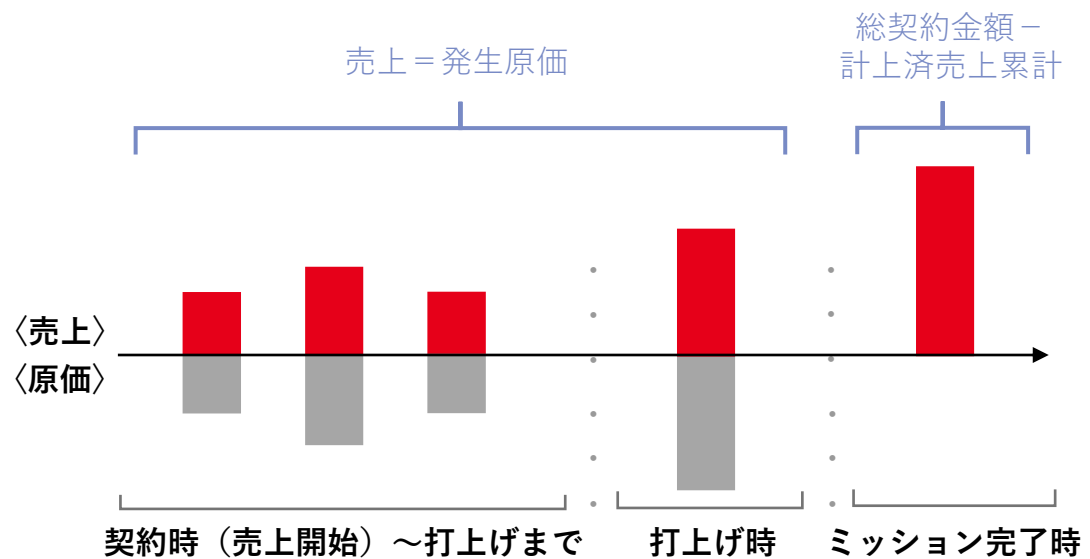


## ミッション1 審査における外部有識者の例<sup>(5)</sup>

<b>SRR</b>		<b>PDR</b>		<b>CDR</b>	
	東京大学 船瀬准教授		宇宙科学研究所 稲谷教授		東京大学 中須賀教授
	宇宙科学研究所 稲谷教授		宇宙科学研究所 稲谷教授		宇宙科学研究所 高島教授
			その他、国内外の30名の スペシャリスト		九州工業大学 趙教授

(1) System Requirement Review: ビジネス要件とシステム要件の整合性を確認の上、システム設計開始を承認する審査会 (2)ランダーの仕様変更を決定したため改めて実施  
(3) Pre-shipment Review: 試験結果の確認及び、打上げ場への輸送承認を行う審査会 (4) Launch Readiness Review: ロケットへのインテグレーション作業終了の確認及び、打上げと初期運用への移行承認を行う審査会 (5) 所属は審査時点

## 当社は原価回収基準を適用しており、売上計上は原価発生に連動



### 当社が適用する原価回収基準

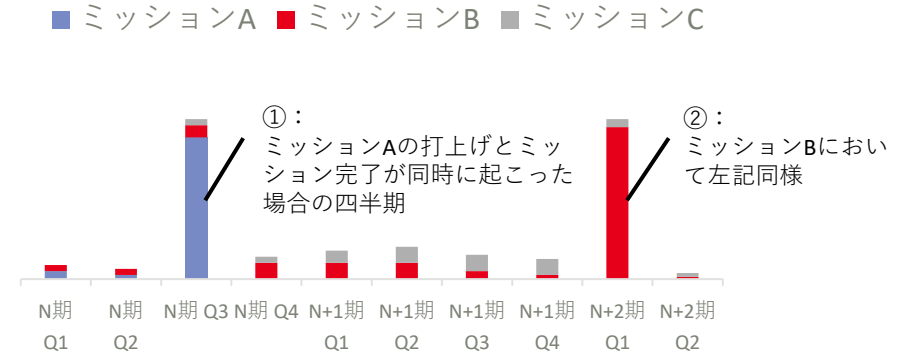
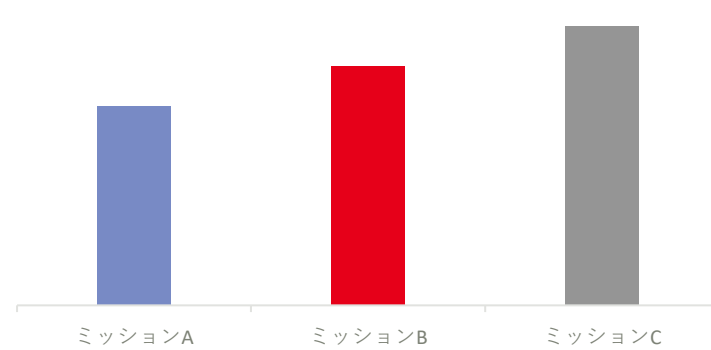
#### ミッション完了まで：

- 顧客からの前入金が売上計上額の上限
- その範囲内で、発生した原価と同等金額を売上として計上
- つまり、ミッション単体で見た粗利は常にゼロ

#### ミッション完了時：

- 顧客からの入金額が売上計上額の上限となるのは不変
- ミッションの総契約金額から、それまでに計上した売上を除いた金額を、完了時の売上として一括計上
- つまり、完了時点で初めてミッション単体での粗利を認識

## 四半期売上は時期により偏りが発生しやすいため、ミッション単位での総契約金額が当社のKPI



ispace

### 総契約金額<sup>(1)</sup>

- 総契約金額を2-3年かけて売上計上しており、ミッション単位での総契約金額 = ミッション単位での累計売上額となる
- つまり、総契約金額は将来的な売上の先行指標
- 四半期売上と比較し、総契約金額の多寡は当社のビジネス進捗をダイレクトに反映しやすい指標

### 四半期売上<sup>(1)</sup>

- ①および②の四半期のように、ミッションの打上げ及びミッション完了時に売上が突出して大きくなる
- この売上増は、あくまで会計基準に基づき売上が集中するだけであり、本質的な当社の事業進捗を必ずしも表してはいない

(1) 上記グラフはあくまでイメージであり、実際の総契約金額や四半期売上を示すものではありません

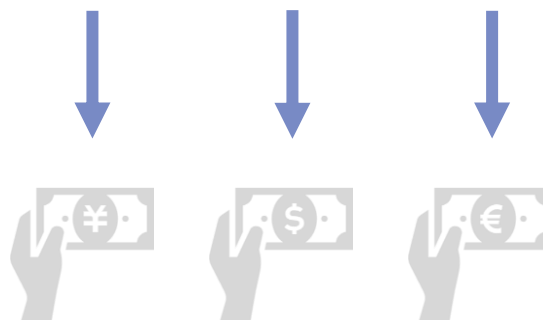


## ミッション成否による売上計上への影響は限定的



### 解約不可かつ返金不要の契約

- ペイロード契約は原則、顧客事由での中途解約は不可、かつ返金義務はないため、入金済の金額の返還義務は発生しない<sup>(1)</sup>



### 約9割が打上げ前に入金予定

- ミッション3までの締結済の全てのペイロード契約を平均すると、契約金額の約9割が打上げ前に入金される定め<sup>(1)</sup>
- 打上げ後に一部入金を設定されていても、最終的なミッション成否に関わらず、条件達成状況に応じて入金される

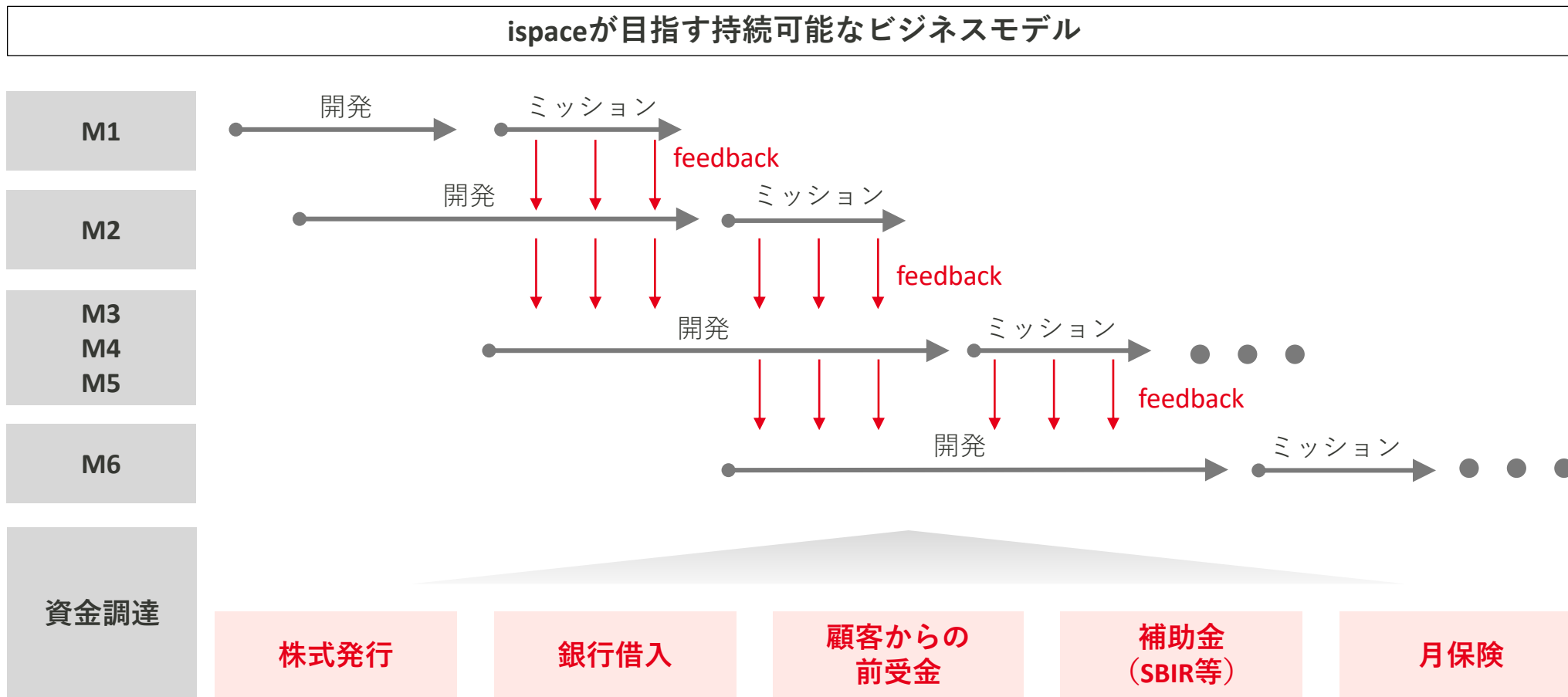


### ミッション1での影響は8%のみ

- ミッション1においては総契約12億円のうち、約1億円（全体の約8%）が着陸未達によって売上が減少したものの、その影響は限定的

(1) 重大な契約違反の場合は除く

複数ミッションを並行開発し、先行ミッションから得た経験を後続ミッションへ適時・適切に伝達し技術の成熟度を高めるモデル。この並行開発を支える強固な財務基盤が不可欠



(単位：百万円)	2023年3月期					2024年3月期					2025年 3月期
			M1打上げ			M1完了					
	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1
売上高 <sup>(1)</sup>	194	201	428	165	989	815	514	496	530	2,357	635
売上原価	129	55	215	35	436	243	400	377	407	1,428	528
売上総利益	64	146	212	129	552	571	114	118	123	928	107
売上総利益率	33.1%	72.6%	49.7%	78.3%	55.9%	70.1%	22.2%	23.9%	23.3%	39.4%	16.9%
販売管理費	1,304	1,227	7,243	1,801	11,576	1,681	1,045	1,826	1,876	6,429	2,402
研究開発費	922	767	6,492	1,051	9,233	1,065	571	1,060	1,137	3,834	1,411
給料及び手当	133	165	233	191	723	222	208	296	269	997	475
その他	247	294	518	558	1,619	392	265	469	469	1,598	516
営業損益	△1,240	△1,080	△7,031	△1,671	△11,023	△1,109	△931	△1,707	△1,752	△5,501	△2,295
為替損益	140	106	△231	67	83	288	115	△499	737	641	858
その他	△5	△303	△71	△56	△437	△553	△66	△125	△491	△1,237	△139
経常損益	△1,105	△1,278	△7,333	△1,660	△11,378	△1,375	△882	△2,332	△1,507	△6,097	△1,576
当期純損益	△1,106	△1,277	△7,333	△1,680	△11,398	△1,374	2,912	△2,374	△1,529	△2,366	△1,579

(1) 当社は現在、ミッション1-3の売上計上においてそれぞれ原価回収基準を会計処理に用いており、原価としての費用発生分が売上に計上されるため、費用発生の増加に連動して売上が増加する見込み。ミッション完了時に原価発生分を超える売上が未計上の場合には一括で売上処理される仕組み

(単位：百万円)	2023年3月期				2024年3月期				2025年 3月期
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
流動資産合計	10,827	14,840	7,263	5,730	10,078	13,525	13,485	21,784	21,220
内 現金及び預金	5,175	8,617	4,399	3,381	7,611	11,522	9,676	14,315	12,673
内 短期前渡金	5,284	5,812	1,790	1,745	1,877	1,486	3,158	4,228	4,928
固定資産合計	606	699	1,481	1,461	1,756	4,878	4,828	5,248	5,341
内 有形固定資産	145	152	153	141	476	1,000	2,126	2,462	3,092
内 長期前渡金	319	319	1,118	1,148	1,140	3,616	2,465	2,560	1,965
総資産合計	11,433	15,539	8,745	7,192	11,835	18,403	18,314	27,033	26,561
流動負債合計	3,008	3,345	3,607	4,123	4,346	7,913	7,772	10,503	12,076
内 前受金	1,284	1,543	1,731	2,382	3,265	3,932	3,618	3,190	3,214
固定負債合計	700	5,692	5,691	5,416	4,871	4,877	6,866	6,784	6,471
内 長期借入金	688	5,680	5,680	5,395	4,570	4,570	6,570	6,538	6,224
純資産合計	7,724	6,501	△554	△2,347	2,617	5,612	3,675	9,745	8,013
(有利子負債)	2,138	7,113	7,088	6,778	5,029	8,020	10,020	12,518	14,054

## 本資料で使用される用語の説明

用語	説明
PDR	Preliminary Design Review。仕様値に対する設計結果、設計検証計画の実現性を確認する審査会
CDR	Critical Design Review。製造と試験の詳細設計と検証計画が適正かを、これまでに実施した試作評価、熱構造特性の評価、電気機械設計等の評価を活用して確認する審査会
PSA	Payload Service Agreement。ペイロードサービス契約のことで、弊社がお客様とペイロードサービスを締結する際に、最終合意となる契約文書
Interim PSA	Interim Payload Service Agreement。ペイロードサービス中間契約のことで、最終合意となるPSA契約を締結するための交渉の前提となる文書
MOU	Memorandum of understanding。基本合意書
RESILIENCE	ミッション2で使われるランダーの名称。RESILIENCE は日本語で「再起」や「復活」「回復」等の意味であり、ミッション1での月面着陸の失敗を有効に活用し、迅速かつしなやかに再起するという、“Never Quit the Lunar Quest”の精神が込められた名称
APEX 1.0	ミッション3で使われるランダーの名称。A Pioneer In Explorationの頭文字を取りAPEX
フライトモデル	実際に打ち上げるモデル
エンジニアモデル	基本設計に基づき製作されるモデル

## 本資料の取り扱いについて

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、既知及び未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の結果や業績は、将来予想に関する記述によって明示的又は黙示的に示された将来の結果や業績の予測とは大きく異なる可能性があります。

これらリスクや不確実性には、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

i s p a c e

# Never Quit the Lunar Quest

私たちは歩み続けます。

---

IRに関するお問い合わせ: [ir@ispace-inc.com](mailto:ir@ispace-inc.com)

